

郷土資料館だより

Vol.40 No.1

2017.8.1

企画展「三島のたからもの一市の指定文化財を大公開！」開催中

- 開催期間 前期 歴史編 平成29年6月3日(土)～8月6日(日)
後期 美術編 平成29年8月8日(火)～9月10日(日)

- 会場 郷土資料館1階企画展示室

三島市内には長い歴史や風土の中で育まれた優れた歴史資料や美術品が多数残されています。これらは地域の歴史や文化を知るうえで極めて重要であり、末永く後世に残していきたい地域の財産です。そのうち特に重要なものについては、国、県、市がそれぞれ法令や条例に基づいて文化財として指定し、保存・活用に努めています。

今回の企画展は、市指定文化財の中から歴史資料と美術資料を中心に展示し、地域に残された優れた文化財を知っていただく機会とするものです。前期を歴史編、後期を美術編として展示品の入れ替えを行い、日ごろ見ることのできない多種多様な文化財をご覧ください。



箱根田遺跡出土祭祀関係遺物(歴史編展示)



栗原忠二画「月島の月」(美術編展示)

●主な展示内容

【歴史編】箱根田遺跡出土祭祀関係遺物、三嶋曆、三島宿本陣関係史料、「伊豆国全図」、花島家資料ほか

【美術編】「三島宿風俗絵屏風」、梅御殿杉戸絵、栗原忠二画「月島の月」、下田舜堂画「朝焼けの富士」ほか

関連事業

◆学芸員による展示解説(申込不要、下記の日時に会場までお越しください)

開催日 歴史編 終了、美術編 8月26日(土)、9月2日(土) 11:00～/13:30～(各45分程度)

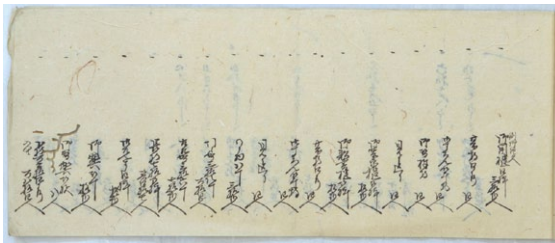
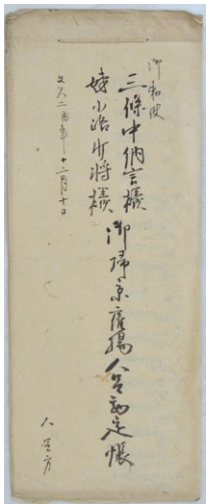
◆向山古墳群見学ツアー(事前申込制、定員25名)

開催日 8月30日(水)

内容 鉄剣(市指定文化財・常設展示中)が出土した向山古墳群(5世紀後半～6世紀前半)を学芸員の解説つきで歩きます。

企画展展示資料紹介① 樋口家旧蔵三島宿本陣関係史料

本陣とは、江戸時代、宿場のなかに設けられた、幕府の認める公用旅行者・大名・外国使節などが宿泊・休憩するための特別な施設です。三島宿では、樋口家と世古家という二つの家の本陣の業務を行っていました。このうち樋口家には1600余点の史資料が伝来しました。多くは本陣業務に関わって作成された記録類で、江戸時代の交通史を知るうえで重要な情報が多く記されていました。そこで特に歴史的価値が高いと見なされる68点が昭和45年2月14日に市の文化財に指定されています。平成14年には、文化財指定されたものを含むほとんどの史資料を、同家から当館に寄贈していただきました。



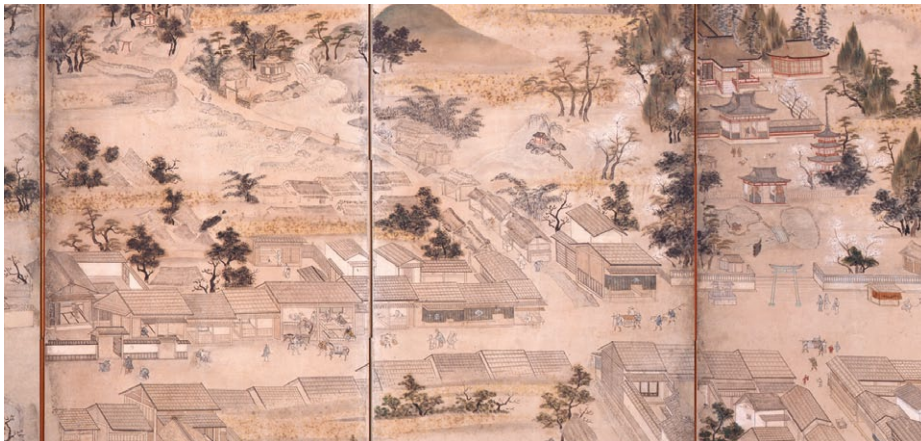
▼▲樋口家旧蔵本陣関係文書より『御勅使三条中納言様・姉小路少将様御帰京雇揚人足勘定帳』の表紙及び第1丁

さて、三島宿は東海道の難所箱根山の麓に位置します。そのため多種多様な旅人がこの地で休息をとり、あるいは宿泊して心身の疲労を癒しました。樋口本陣の古文書からは、参勤交代途上の大名や、貴族の姫宮、公務で旅する武家や公家等の名前を拾うことができ、彼等の宿泊時の様子をうかがい知ることができます。企画展「三島のたからもの」歴史編では、この樋口家旧蔵三島宿本陣関係史料を用い、三島宿本陣を利用した様々な顔ぶれをご紹介します。写真は幕末の動乱期、文久2年(1862)に江戸城から朝廷に戻る勅使一行が本陣に滞在したときの古文書で、勅使の行列に必要な人足の人数を書き上げたものです。この勅使は、孝明天皇の攘夷の命を将軍家茂に伝宣するために特別に遣わされたものでした。正使を公家の尊王攘夷派の中心的存在であった中納言三条実美が、副使を同じく尊攘派のグループに属した近衛少将姉小路公知がつとめています。

企画展展示資料紹介② 「三島宿風俗絵屏風」

当館3階「三島の歴史体験学習室」の一画には、江戸時代の三島の様子を描いた大きなパネルを展示しています。天保年間(1830～1844)に描かれた六曲一双(六ツ折の屏風で左右一对)の屏風『三島宿風俗絵屏風』(三島信用金庫所蔵)です。この屏風の作者は小沼満英という絵師で、浮世絵師ではないかとも推測されていますが詳しいことはわかっていません。宿内の旧家・山口家に半年ほど逗留した際に宿代として描いていったと伝わっています。

8月8日(火)から始まる、企画展「三島のたからもの一市の指定文化財を大公開！」の美術編では、普段パネルでご覧いただいているこの『三島宿風俗絵屏風』の実物を展示できることになりました。



◀屏風左双部分(世古本陣、問屋場、三嶋大社)

三嶋大社の境内には、三重塔や仁王門など現在では失われている建物が描かれており、当時の大社内の様子がわかります。



◀屏風右双部分(箱根西坂)

右下、今井坂のわきの茶屋では宴が行われています。茶屋から階段を登ったところに愛宕社あたごが描かれていますが、現在は残っていません。

左双は、本陣といやば、問屋場、三嶋大社などの宿内のにぎわいのある場所と、小浜池やその周辺に点在する寺社、田んぼなどのどかな風景の双方が描かれています。池では舟遊びの様子が、三嶋大社には咲き誇る桜が描かれており、春と夏が表現されています。

右双には、三島宿を抜けて川原ヶ谷から箱根へ至る街道筋が描かれています。遠景として描かれた富士山と箱根山は冠雪しており冬が表現され、今井坂の茶屋には紅葉を愛でながらの酒宴が描かれ、秋が表現されています。

宿場内やその周辺の様子ほかに、馬を引く人、本陣で侍を迎える人、田を耕す人、街道筋の博打打や遊芸人など、当時の人々の生活の様子がいきいきと描かれているのもこの作品の魅力のひとつです。

宿場の景観や当時の宿風俗を知るうえでも大変貴重なものであることから、昭和41年に市の文化財に指定されました。

次回企画展:

静岡県立美術館移動美術展

「富士山と静岡ゆかりの画家たち」 9月15日(金)～10月15日(日)

同時開催

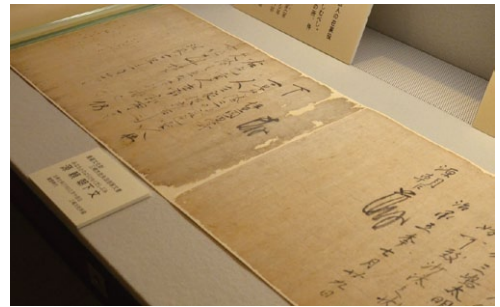
「キッズびじゅつ展inみしま～こどもがみた世界～」 9月15日(金)～10月1日(日)

三嶋大社の古文書を読み解く 1

●プロローグ 三嶋大社の古文書とは

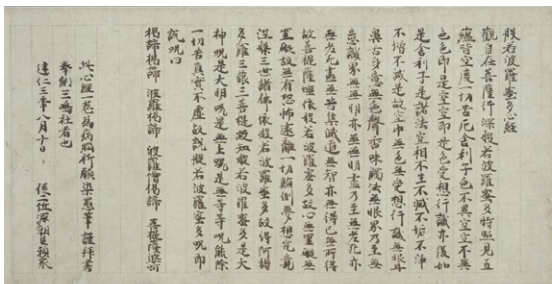
おそらくは誰もが素通りしてしまう博物館展示の第一は、古文書ではないでしょうか。活字の解説だって面倒なのに、このくにくにくにした筆文字を読めといわれても…となりそうですね。もちろん、熱心に勉強されている方は多いですし、古文書好きな歴史ファンもいらっしゃいますが、旗色はあまりよろしくないようです。

現在私達が知る歴史叙述は、古文書の中核とした文字史料の解説・研究によってその骨子が成り立っています。歴史叙述の縦糸とも言ってもよいでしょう。そこに民俗学や考古学、地理学や社会学など様々な学問を、横糸として通すと、より詳細な歴史叙述が可能となるのであり、博物館にとって古文書は、大切な基本史料となっているのです。ここではそうした古文書を読むことで、まずは歴史叙述の入口に立ってみたいと考えます。なお、「三嶋大社の古文書」と題しましたが、ここで取り上げる古文書は、三嶋大社所蔵の古文書と、宮司家矢田部家所蔵の古文書です。それぞれ「三嶋大社文書」「矢田部家文書」と称すこととします。



三嶋大社宝物館での展示の様子

ところで、古文書は「こもんじょ」と読み、歴史史料として、主に近代以降の文書一般とは区別されていますが広くは文献史料の一部です。古文書学では、指示書や上申書、私的な手紙など、特定他者への情報伝達、意思表示を目的とした文字史料を文書と呼び、必ずしも特定他者への情報伝達などが意図されない日記や編纂物、墨筆などとは区別しています。ただ、古文書群としての保存・管理の必要上、多くの場合は古文書を広く捉えます。例えば平成3～4年度に行われた静岡県の文化財調査(国庫補助事業)時には、「三嶋大社文書」「矢田部家文書」とも、いわゆる古文書の他、日記や古絵図、棟札などを含めた、文字によって表現される史料類を古文書として把握し整理しました(保存整理の必要上、近代の史料をも古文書群に含める場合があります。この調査では、両文書群とも昭和初年までの文書を含めています)。



源頼家筆「紙本墨書般若心経」

そうした観点で数えると、現在「三嶋大社文書」は約400点ほど、「矢田部家文書」は約1100点ほどが確認できます。また平成6年、文化庁は県の調査をもとに、両文書から中世文書と近世文書、合わせて592点を選び重要文化財に指定しましたが、これにはもちろん、日記や古絵図なども含めています。ただこの時、源頼家筆「紙本墨書般若心経」のみは、源頼家唯一の現存自筆文書という特別な価値が認められるため、文書群には含めず、書蹟として単品で重要文化財に指定

されています。どの様な観点で整理・分類するかによって、文書群に含む史料範囲も異なってくるわけです。

先に、「三嶋大社の古文書」と題しながら、三嶋大社と矢田部家の古文書を取り上げる旨を記しましたが、さらには日記や古絵図、重文指定外の古文書などをも含め、広い意味での「三嶋大社の古文書」に、ここでは触れて頂こうと考えています。次回から個々の古文書を取り上げ、それが書かれた背景、そして文面から読み取ることができる情報を、様々な角度から探っていきましょう。

※参考:重要文化財に指定された古文書592点に関しては、別に国の指定名称があって、両者一括で「三嶋大社矢田部家文書」とされています。複数の所蔵先(特に法人と個人)を一括指定することは異例ですが、両史料は密接かつ不可分なものという理由から、全国で唯一の珍しい指定形式を採っています。

(三島市郷土資料館運営委員・奥村徹也/三嶋大社宝物館 学芸員)

三島の歴史とジオポイント・10

—白滝公園—

三島市民の憩いの場、白滝公園(一番町1-1)の生い立ちをジオの視点から説明します。

公園は、約1万年前に新富士火山から流出した玄武岩質溶岩が、黄瀬川谷を埋め立てながら30km以上も流れた末端部に位置します。この溶岩流は「三島溶岩」と名付けられています。

約2900年前には、新富士火山東斜面の大崩壊に伴う超巨大土石流(御殿場泥流)が、楽寿園から三島駅にかけて広がる溶岩台地「小浜山」を除き、三島市街地全域を埋め尽くしました。公園付近もこれに覆われました。三島市内の湧水河川流域には、その後の浸食作用で流されなかった土石流起源の大石が残っています。三島市街地や河川敷に大石が多いのは、このためです。「三島七石」も殆どが土石流起源です。

堅い溶岩が露出し、居住や耕作に不適な小浜山一帯は、約1400年前の古墳時代後期には墓域となり、たくさんの古墳が造られました。当時の人々にとって、清水の湧き出る公園付近は冥土と娑婆の境界に位置していました。今でも、お盆には公園で精霊流しが行われています。

江戸時代に入ると、公園や楽寿園一帯には多数の寺社が建立され聖域となりました。園内にも法正院(宝勝寺と書く資料もある)や観音堂、松尾社(山や治水の神、おおやまのいのかみ大山咋神を祀る)、天神社、稲荷社がありました。法正院は現在の公衆トイレ付近にありました。観音堂は大型遊具付近にありました。現在は公園入口に位置を変えています。

白滝公園のジオポイントを説明します。

園内には玄武岩質溶岩流末端の地形が非常によく残されています。日本国中を見ても市街地で手軽に・気軽に溶岩地形を観察できる場所は他にないでしょう。

写真1は溶岩流の中を流れる溶岩が、固結した表層の溶岩層を押し上げた地形「溶岩塚」と、それを突き破って流れ出た二次溶岩流の様子を写しています。

溶岩表面のあちこちに流れるときにできた流動しわ=「縄状溶岩」も観察できます。池の中には溶岩塚表層部をはぎ取ったものが無造作に積み重ねられています。水神社横の石橋も溶岩塚表層をはぎ取って使用しています。

写真2は、何枚も重なっている溶岩層の隙間から清水が湧き出ている様子です。一枚の溶岩層の厚さは30cm程度なので、地下水位が上がると上方の隙間からも湧き出します。初夏、池の水位が上がる時、ぜひ観察してください。

写真3は、御殿場泥流が運んできた大石です、やや角張った玄武岩質のあかくれき亜角礫です。土石流に運ばれた特徴をよく現しています。園内をよく見ると大石はあちこちにあります。一部は石垣にも利用されています。

溶岩層にたくましく根を張った、美しい檜林の中で、蝉しぐれを聞きながら、至福のひと時を堪能してください。

白滝公園は自然が三島市民に与えてくれた大切な贈り物ですが、富士火山の活動によってつくられたものです。必ずいつかは三島市も火山災害に遭遇することを忘れてはなりません。

(郷土資料館運営委員・増島淳)



写真1 奥の高まりが溶岩塚



写真2 溶岩層の隙間からの湧水



写真3 御殿場泥流が運んだ大石

企画展「^{みよる}三四呂人形これまでと、これから」報告

- 開催期間 平成29年2月4日(土)～5月28日(日)
一部展示替えあり、前期3/26まで、後期3/28から
- 展示資料数 178点(前期144点、後期142点、重複あり) ●入場者数 19,409人
- 関連事業 展示解説 4/29(土)、30(日)、5/27(土)、28(日)
11:00～、13:30～ 各回45分程度 参加者合計 63人
三四呂人形のぬりえにちょうせん 参加者数 288人
(抽選で3名に複製三四呂人形、10名に三四呂人形ストラップをプレゼント)

今回の企画展では昭和初期の三島出身の人形作家、野口三四郎による張子人形である「三四呂人形」を多数紹介しました。作者の没後80年が経過し、市民の中にも「三四呂人形」の名を知らない方が増えてきたこともあり、張子人形をはじめとして、水彩画など可能な限り多くの作品を集め、制作過程の木型なども展示し、三四呂人形について多くの方に知ってもらえるような展示としました。

企画展のアンケートからは「愛らしく憎めない表情の人形ですね」「素朴で味のある人形で、親しみがもてました」「ホッとする時間でした」など高い評価の声をいただくことができました。企画展会場で実施したぬり絵についても小さなお子さんから大人までたくさんの方に参加していただき、壁面をぬり絵でいっぱいにすることができました。

また、三島商工会議所製作による「三四呂人形ストラップ」も好評で多くの方に購入していただくことができました。



ふるさと講座「箱根旧街道ウォーキング ジオツアー」開催報告

- 開催日時 平成29年5月30日(火) 8時30分～15時30分
- 見学地 箱根峠、大枯れ木坂、山中一里塚、甲石、明治天皇御小休所跡、念仏石、願合寺石畳、石橋、山中城(障子堀、畝堀) 駒形諏訪神社、芝切地藏堂、腰巻石畳、三島パミス露出崖など
- 参加者 22人
- 講師 静岡県地学会 東部支部長 増島 淳氏

箱根西坂の旧東海道を箱根峠から下りながら、箱根の地形の成り立ちについてのお話を伺いました。約4万年前に箱根が噴火した時の噴出物の地層が三島の名を冠して「三島パミス」と名付けられていること、念仏石の周辺はかつて石切り場で、その石が箱根旧街道の石畳に使用されていること、願合寺石畳では発掘調査の時に江戸時代の石橋がそのまま出土したことなど、興味深いお話が続きました。

好天に恵まれ、山中城からの眺望もよく、この城が西からの攻撃が見渡せる守りの適地であることを参加者の皆さんは実感されていたようです。



箱根山の地層、三島パミスを見る

平成 28 年度 郷土資料館事業報告

●企画展

展 示 名	実 施 期 間	主 な 展 示 内 容	入 館 者 数
「三島宿と三嶋暦」	平成 28 年 4 月 28 日 (木) ～ 7 月 3 日 (日)	本陣や旅籠に関する資料、宿場絵図、土産物として有名だった三嶋暦などを通して三島宿を紹介	13,126 人
関連事業：展示解説 (5/29、6/25) 計 52 人			
市制 75 周年記念 歴史文化協定 1 周年記念 「源頼朝と伊豆 ― 史跡と伝承 ―」	7 月 16 日 (土) ～ 9 月 22 日 (木)	三島・葦山間の下田街道沿いを中心に頼朝ゆかりの史跡や伝承を紹介	14,129 人
関連事業：「頼朝ゆかりの地巡りツアー①三島編ウォーキングツアー 参加者 29 人 「頼朝ゆかりの地巡りツアー②函南・伊豆の国編バスツアー 参加者 22 人			
3 市博物館共同企画展 「駿東・北伊豆の戦国時代 ― 北条五代と山中城 ―」	10 月 15 日 (土) ～ 平成 29 年 1 月 22 日 (日)	後北条氏領であった時代の出土遺物、関連古文書を展示	22,871 人
関連事業：展示解説 (11/20、11/23) 計 49 人、講演会 118 人 三市三館スタンプラリー 景品交換者 197 人			
「三四呂人形 これまでと、 これから」	2 月 4 日 (土) ～ 5 月 28 日 (日)	三四呂人形及び水彩画等の関連資料、三四呂人形の 3D データ化等を紹介 一部展示替えあり 前期 3/26 まで、後期 3/28 から	19,409 人 (8,951)※
関連事業：展示解説 (H29.4/29、4/30、5/27、5/28) 計 63 人 三四呂人形のぬりえにちょうせん 計 288 人参加			

※カッコ内の数値は平成 29 年 3 月 31 日までの入場者数

●その他の展示

三嶋暦師の館、西小学校郷土資料室、生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」

●講座・教室・講演会

	講 座 名	開 催 日	人 数	講 座 名	開 催 日	人 数
郷土教室	こどもの日体験デー	5 月 5 日 (木・祝)	95 人	昔のあそび	9 月 11 日 (日)	93 人
	古代のくらし	5 月 15 日 (日)	95 人	ミニ藁ぼうき作り	10 月 22 日 (土)	132 人
	昔のどうぐ	6 月 11 日 (土)	63 人	昔のあそび大会	10 月 29 日 (土)	68 人
	江戸時代の三島宿	6 月 25 日 (土)	52 人	ミニチュアうどん作り	11 月 19 日 (土)	41 人
	楽寿園の自然	7 月 24 日 (日)	67 人	楽寿園の自然	11 月 26 日 (土)	80 人
	昔のくらし	7 月 30 日 (土)	57 人	ワラ細工	12 月 10 日 (土)	60 人
	機織り体験 (講師：杉山洋子氏)	7 月 30 日 (土)	9 人	駿河凧を作ろう (講師：芹澤彰博氏)	1 月 7 日 (土)	12 人
	型染め体験	8 月 4 日 (木)	31 人	リリアン編みでトリを作ろう	1 月 21 日 (土)	10 人
	古代のくらし	8 月 10 日 (水)	36 人	昔のどうぐ	2 月 18 日 (土)	48 人
	クラフトづくり	8 月 20 日 (土)	52 人	富士山の日協賛事業 遊んで学ぼう富士山デー	2 月 23 日 (木)	12 人
	江戸時代の三島宿	9 月 4 日 (日)	88 人	江戸時代の三島宿	3 月 11 日 (土)	42 人
郷土教室合計 22 回、参加者 1,643 人						
講 座	ふるさと講座 「伊豆半島ジオパーク探訪⑤」 講師：増島淳氏	5 月 31 日 (火)	30 人	ふるさと講座 「頼朝ゆかりの地めぐりツアー②」 講師：伊豆の国市職員、かんなみ仏 の里美術館 鈴木勝彦館長	10 月 13 日 (木)	22 人
	ふるさと講座 「頼朝ゆかりの地めぐりツアー①」	9 月 17 日 (土)	29 人	ブックフェスへの出展 (郷土の昔話 の紙芝居を上演) 講師：大川裕代氏	4 月 22 日 (土)	59 人
講 演 会	企画展関連講演会 「小田原北条氏と駿豆国境地域」 講師：駿河台大学教授 黒田基樹氏	11 月 13 日 (日)	118 人			

	講 座 名	開 催 日	人 数	講 師
講 座 ※ 文化財ボランティア	開講式			
	三島の歴史① 原始～中世	7 月 2 日 (土)	40 人	文化振興課職員、郷土資料館職員
	三島の歴史② 三嶋大社の歴史		39 人	三嶋大社宝物館 奥村徹也氏
	三島の歴史③ 近世 (三島宿)	8 月 6 日 (土)	34 人	郷土資料館職員
	石造物調査① 北駿・伊豆の石造物		30 人	元富士山資料館 井上輝夫氏
	伊豆の歴史 江川英龍と反射炉	9 月 10 日 (土)	36 人	(特非) 伊豆学研究会 橋本敬之氏
古文書整理① 古文書整理の最初歩		37 人	(特非) 伊豆学研究会 橋本敬之氏	
石造物調査② 中郷地域の歴史と民俗	10 月 1 日 (土)	22 人	郷土資料館職員	
石造物調査③ 石造物調査の実際		21 人	錦田郷土研究会 山本隆雄氏	

講座名	開催日	人数	講師
古文書整理② 古文書整理の進め方	10月8日(土)	37人	国文学研究資料館・(特非)歴史資料継承機構 西村慎太郎氏
三島の自然① 三島の地理的特徴	12月17日(土)	21人	日本大学 加藤雅功氏 伊豆半島ジオガイド 斎藤幸哉氏
三島の自然② 楽寿園ジオツアー		20人	
文化財ボランティア講座合計 11講座、参加者 337人			

※三島地域資料研究会主催

●団体見学

28件 1,642人(市内小学校14件、市外小学校9件、その他5件)

●資料の収集、保管状況

平成28年度末現在 収蔵資料総数 41,747点(民俗6,333点、歴史34,661点、美術722点、自然31点)
平成28年度新規受入資料数 14件(内訳:寄贈14件、購入0件)

●刊行物

「郷土資料館だより」115～117号
 図録『源頼朝と伊豆 一史跡と伝承一』
 『三島宿関係史料集8(三島傳記・諸用向見合)』
 『三島市郷土資料館研究報告9』
 『安久 杉山家文書目録1』(三島地域資料研究会編)
 『武田善政作 伊豆国全図』(三島地域資料研究会編)

●平成28年度 開館日数 308日 入館者数 69,798人

郷土教室・体験イベントの報告と予定

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。
 平成29年3月から6月までに行った事業をご紹介します。

日程	郷土教室	内容	参加者
3月11日(土)	江戸時代の三島宿	立版古作り、三島宿の展示解説	42人
5月5日(金祝)	子供の日体験デー	折り紙のこいのぼり・かぶとを作る	105人
5月20日(土)	古代のくらし	勾玉作り、火起こし、土器あてクイズ	57人
6月4日(土)	江戸時代の三島宿	旅人衣装を着てみる、展示解説	53人



子供の日体験デー



古代のくらし・火起こし体験



旅人衣装の着用体験

これからの郷土教室の予定

日程	郷土教室	内容
8月9日(水)	昔のあそび大会	コマ・けん玉・メンコ・お手玉遊び、三島の昔ばなしの紙芝居
8月22日(火)	型染め体験	防染という染織の技法で紙を染めカードを作る
8月27日(日)	楽寿園の自然	クラフト作り、溶岩・化石の観察
9月2日(土)	江戸時代の三島宿	三島の昔ばなしの紙芝居、三島宿の展示解説
9月24日(日)	昔のあそび	ブンブンごま作り、こま・けん玉遊び

今年も楽しい体験イベント盛りだくさん！夏休み中もやってるよ！郷土資料館においでよ！

寄贈・購入資料の紹介

平成29年2月から6月までに、次の方々から寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございました(寄贈者の方の希望により個人名を伏せて表記しています)。また、平成29年度に2点の資料を購入しました。

●寄贈資料

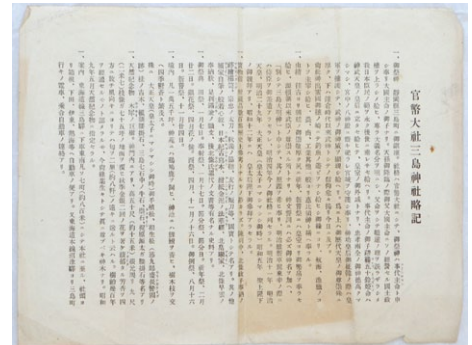
寄贈者	資料名	点数
個人(三島市)	紙芝居「8ちゃん」、同「しんじゅ姫」ほか	73点
個人(三島市)	複製三四呂人形「人形持ち」、みちこ人形「ねんね」	2点
箱根山組合	会議録、予算・決算関連書類、通知文書、地図ほか	1式
個人(三島市)	豆州山中城合戦図(天欠、著色、江戸時代成立)	1点
鈴木由美子氏(三島市)	芝切地藏尊像(軸装)	1点
鈴木隆生氏(三島市)	足踏み式ミシン(MITSUBISHI製)	1点
個人(三島市)	『美しい暮らしの手帖』第1号(複製)	1点
三島茶碗文化振興会	三島茶碗「三島表壺」(府川和泉作)ほか	7点
小林孝氏(三島市)	農具、民具	14点

●購入資料

行幸記念絵葉書	全2輯(第1輯7枚、第2輯5枚) 昭和5年に催された静岡行幸の際の記念絵葉書で、静岡県立三島高等女学校(現三島北高等学校)校友会によって発行されたものです。同校の授業風景や合同体操の様子を天覧する昭和天皇の姿が記録されています。
官幣大社三島神社略記	印刷物、1枚。 三島神社(現三嶋大社)の御祭神、由緒、宝物館、御祭典、境内、天然記念物、交通案内について記されています。貞明皇太后の行啓に関する記載があること、「三島町」の表記があることから、昭和12～16年に発行されたものと推測されます。



昭和5年 行幸記念絵葉書(三島高女の体操天覧)



官幣大社三島神社略記

●平成29年度職員紹介

よろしくお願ひします。

館長 芦川忠利(郷土文化財室室長と兼務)
職員 平林研治 柿島綾子 福田淑子 秋山朋弘 笹山曜子
光井貴子(5月より) 荻野麻衣(7月より)

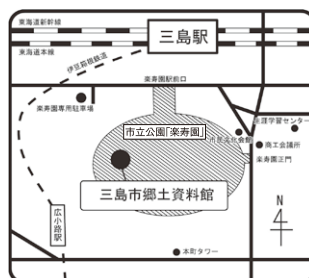
郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045

開館時間 午前9時～午後5時(4月～10月)
午前9時～午後4時30分(11月～3月)

休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、
年末年始

入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途
300円がかかります。15歳未満は無料、
学生は学生証提示にて無料。)



三島駅(南口)から徒歩5分。

郷土資料館だより

Vol.40 No.1(第118号)

発行日 平成29年8月1日(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館

発行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>